

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4774800033		
法人名	有限会社 美ら心		
事業所名	グループホームあさぎりの里		
所在地	沖縄県宮古島市下地字洲鎌518-1		
自己評価作成日	平成30年10月13日	評価結果市町村受理日	平成31年 1月 7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&ijyosyoCd=4774800033-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	平成30年10月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の中には、12年目、10年目と98歳、109歳がいらっしゃいます。御本人 ご家族が安心して当所での看取りが出来るよう、24時間医療連携体制対応して、医療従事者兼ケアマネが体調の変化に気づき、早期発見し治療に繋げています。ご家族面会では、体調を随時報告し、毎月ミーティングで利用者一人ひとりの思いを大切に介護方針を検討し、ケア目標を立てています。地域行事、当所の行事に出来る限り参加していただき、ご家族、ご近所との交流も深めて温かい家族的な雰囲気の中、笑い声が絶えない日常生活が遅れるように支援しています。食事は旬の野菜を使用、ご家族やご近所から頂いたり、利用者様ごとに合った食事形態にして提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設13年が経過した当事業所は、管理者が設計の段階から関わり、建物が中庭を囲むコの字型に造られ、中庭では昼食やおやつ等を楽しみ、広いホールは、敬老会等多目的に利用できるようになっている。居室は、飾り棚の設置や利用者に合わせた寝具を配置するとともに利用者の安全に配慮したベッド柵カバーやクッションが手作りされている。2か月毎に利用者の様子を写真にした事業所だよりや運営推進会議録の他、診療結果等を家族に送付している。看護資格を有する職員を中心に、訪問診療や訪問看護等、医療と連携し、利用者の日頃の健康管理をはじめ、適切な医療を受けられるよう支援するとともに重度化や看取りの支援体制を整備し、家族の協力を得ながら実践している。介護計画は利用者の意向を反映して作成し、職員全体で利用者の支援状況の確認などを行い、個別ケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年12月28日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所してから理念は変わっていません。住み慣れた地域で、その人らしく、思いを尊重して、安心して穏やかに過ごせ、楽しい毎日になるようにケアを話し合っ実践しています。毎日ではありませんが、利用者が廊下を通るときに理念を大きな声で読み上げて、職員全員で共有しています。	開設時に作成した理念を継続し、フロアに掲示している。時折、利用者と職員で唱和するとともに職員採用時は、管理者が理念を説明し、共有している。事業所は、理念の「その人らしく過ごせる支援」を目指し、職務に利用者を含めるのではなく、利用者の意向や生活リズムに合わせた支援に努めている。毎月のミーティングでは、利用者一人ひとりについて「今、何が一番大切か」を検討し、支援目標を立て実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事やイベントに参加したり、利用者からのリクエスト、好きなものを近隣のお店と一緒に買い物に行ったり近隣の歯科を利用している。地域の方からの差し入れ又は地元の野菜をご近所で仕入れ、ご家族からは差し入れがあったりと交流している。ご近所の方が立ち寄って三味線を披露してくれました。	自治会への加入はないが、地域の区長や民生委員が運営推進会議の委員として参加し、協力を得ている。地域住民とは、買い物や散歩等で挨拶をし、住民による野菜や果物等の差し入れや下校時の小中学生の立ち寄りの他、三線や踊り等のボランティアの訪問を受け交流している。地域の農家からは、食材等を仕入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当所行事に地域の住民やご家族、知人に参加を呼びかけ、見学者や入所申込等時に、当所の支援方法と認知症の人に対しての理解、支援の方法等を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、毎回多くの方に参加を呼びかけて、意見交換し、それを当所の職員と共有して、人材育成 サービス向上に生かしている。	会議は、利用者や家族、行政や地域代表の他、知見者として同業者が参加し、年6回開催している。会議では、ヒヤリハットや事故、利用者の健康状況等を報告し、委員と意見交換を行っている。委員からの「網戸の補修や同業者間の交流」等の意見には、対応結果も報告している。外部評価結果は、ファイルにして玄関フロアに設置し、議事録は、毎回、各委員や家族に送付しているが、事業所内では公表されていない。	運営推進会議録も外部評価結果と同様に事業所での公表が望まれる。

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年12月28日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、市の担当者、他のグループホームの管理者・責任者・主任等にも参加していただき、また宮古島グループホーム連絡会を2ヶ月に1回開催して、随時情報を交換し合いサービス向上に活かしている。市には毎月空床情報を伝えている。	行政とは、運営推進会議での情報交換や窓口での更新手続きの他、生活保護や成年後見制度の活用等で関係課と連携している。行政からは、各種研修案内や毎月の市内グループホームの空床情報が配布され、活用されている。災害時の地域高齢者の緊急避難受け入れ依頼には対応する方針をもって、行政と協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度から身体拘束委員会を立ち上げて、随時身体拘束をしないケアについて勉強会ならびに、身体拘束自己チェックをして理解を深め、当所での日常生活が、自宅での生活に近づける支援になるよう取り組んでいる。	「身体拘束をしないケアの方針」と「身体拘束等の適正化のための指針」を作成し、全職員で構成する身体拘束廃止委員会を設置している。5月と7月の委員会では、「拘束しないケア」や「自己チェック」等の研修を行っているが、委員会議事録が作成されていない。重度化した利用者のベッドを電動介護ベッドへ変更した時に4点柵になっていることを見落としている事例があった。	ベッド4点柵は、身体拘束に当たり、やむを得ず身体拘束を行う場合の一連の手続きや適正化のための検討が望まれる。また、身体拘束廃止委員会開催時は、記録を作成するとともに委員の構成については外部からの参加も望まれる。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当所の勉強会にて、虐待について話し合う時間を設けて、ケアの中で何気なく行っている言動やケアの仕方が虐待につながっているのではないかと話し合い、対処法を正しく理解し、ケアに活かしている。	虐待防止の徹底については、虐待防止対応マニュアルを整備し、身体拘束の禁止や権利擁護と合わせて事業所内研修を実施している。ミーティングや朝礼等で、職員による利用者への不適切な言葉遣いや対応がないかを確認するとともに、気になる職員には個別に声かけし、話し合っている。職員の疲労やストレス防止のため、休憩時間や休暇等、労働環境の整備に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当所でも、今年成年後見人を立てる利用者がいます。この機会に、権利擁護に関する制度について職員にも理解してもらっている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年12月28日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改訂時には、納得していただけるまで説明をし、入所してからも面会時や電話、メールで要望、意向、苦情等を伺い理解、納得をしていただけるように努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に、面会時、電話、メールで要望や意見等を伺い、運営推進会議にも参加していただき報告して、それらを運営に反映している。	利用者や家族からの意見や要望は、日々のケアの中で聞いたり、家族の面会や運営推進会議等で聞いたりし、個別に伝言板を設置している居室もある。家族からの「スタッフの名前が覚えられないので、写真と名前を掲示してほしい」には、事務室入口に掲示し、「食事に果物やデザートを出してほしい」には、季節の果物や手作りデザート等、献立に反映させ、対応している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼で、夜勤者からの申し送り、職員からの意見、提案を聞いて、毎月月上旬にミーティング、ケア目標を立てるときにも耳を傾けて、話し合い検討して介護方針を変更している。	職員の意見は、毎月開催の全体ミーティングや日々の申し送りの他、個別面談等で聞いている。職員から、利用者の皮膚剥離防止に車椅子のアームやベッド柵にカバーをすることや車椅子での座位保持にクッションを使用する提案があり、対応されている。居室内の整美に飾り棚の設置や食事の自力摂取に向けて利用者に合わせてスプーン等の自助具を工夫する等、職員意見が反映されている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状態を把握して、資格修得や研修には積極的に参加してもらい、働きやすい環境、自由に意見は言えるような雰囲気作りにかけている。	就業規則が作成され、職員の労働環境を整備し、健康診断やインフルエンザの予防接種も事業所負担で実施されている。正規職員転換制度があり、資格取得を推奨し、就業時は無資格の職員が、段階を経て介護福祉士の資格を取得している。初任者研修や喀痰吸引等、職員が希望する資格取得には、勤務調整をして対応している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年12月28日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	当所の毎月1回の勉強会、外部研修には積極的に参加してもらっている。今年の介護実践研修、実務研修に受けてもらう予定。他のグループホーム連絡会で得たことを、職員と共有して 検討し、ケアに反映している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回のグループホーム連絡会参加や、他のグループホームの運営推進会議参加等で交流して、お互いにサービス向上させていく取り組みをしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には、ご本人の情報を把握しながら、何が困っているのか、どう有りたいのか、ご家族からも意向、要望を聞き、普段からご本人に声をかけ、何気ない言葉や行動を見て、ミーティングで話し合い、介護方針をご家族に報告し対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み希望時や入所してからも、体調の変化の時には、ご家族に報告して、意向や意見、希望を聞き、面会時には要望等に耳を傾け、希望に添えるようにして、運営推進会議にも、参加していただき関係づくりに努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年12月28日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に、ご本人やご家族から情報収集して今、必要な支援は何か、意向や意見、希望を聞いて職員、主治医と共に検討し介護方針を決めご家族に報告して同意を頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、馴染みの人、ご家族のような関係で一緒に食事の準備や食事をしている。一人ひとりのライフスタイルに合わせて、時間にとらわれなくて、無理をせず安心して生活できるように支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族面会時には、ゆっくりと一緒に過ごせるようにして、現状報告(全身状態、体調変化)を伝えて、随時要望や意見等を聞き、ご本人にとって一番何が望んでいるのかを話し合っている。遠方のご家族には電話で連絡して、ご本人に変わり会話を楽しんでもらっている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族は勿論ですが、知人、以前住んでいた場所の馴染みの人が来所時には、ゆっくりと一緒に過ごせるようにし、行き慣れた店に出かけている。集会の方面会して、一緒に外食に出かけられている。	利用者の馴染みの人や場については、本人や家族から聞いて把握している。利用者は、出身地域の祭り見物や馴染みの商店で買い物を行い、地域の理容室に出かけている。信仰を持つ利用者が教会関係者と定期的に外出する他、踊り等芸能が好きな利用者には、劇場での観覧に職員が同行する等、馴染みの人や場との関係が途切れないよう支援している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年12月28日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は、出来るだけリビングで一緒に会話したり、レクレーションおやつを食べて、食事の準備や配膳出来る方には、他の利用者の食事を配ってくれている。車椅子を押してくれたり、洗濯物置、各部屋に配る事のできない利用者の物を手伝ってくれる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度は、終了した利用者がありませんでしたが、自宅に戻られても、入院や移動された場合も、訪問したり連絡して、情報交換をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前には、ご本人 ご家族から今まで生活歴、性格、思いを尊重して、要望や希望を聞き安心してあさぎりの里での生活を送れるように環境づくりに努め、入所してからも日々の変化に合わせた支援を検討している。	利用者の思いは、アセスメントや日常会話の他、入浴時や居室でリラックスした時に「家に帰りたい、服を買いたい、ラーメンが食べたい」等、聞いている。「家に帰りたい」には、介護計画に外出支援としてドライブを位置付け、自宅へ立ち寄ったり、近隣住民とふれ合う等、支援している。把握が困難な利用者には、表情や行動の他、家族から聞いてケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の申し込み時には、ご本人、ご家族関係者からの情報提供をもとにして、ご本人の本当の思いに近づけるように把握に努め、一人ひとりにあったライフスタイルが送れるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年12月28日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調変化を把握して、その日の状態を見て一人ひとりのライフスタイルに合わせて、時間にとられないケアに努め、出来ることを増やして自信に繋げ、楽しく生活できるように支援している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中でご本人やご家族からの意見、要望、希望を聞き、主治医からの留意点に注意してミーティング、担当会議でケア目標を立て職員全員で日々の変化ごとチェックして介護計画を作成している。	介護計画は、利用者や家族の意向、かかりつけ医や職員の意見を反映させて作成している。ミーティングでは、全職員で利用者一人ひとりの状態確認や課題を話し合うとともに毎月、個別のケア目標を掲げて実践し、モニタリングも実施している。長期目標の設定期間の1年を定期の見直しとし、状態変化により食事形態や排泄介助の方法等、随時に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個々の生活状態を記録して、気づきや工夫したこと、ご家族からの意向等は、職員に共有出来る様に、わかるように色を変えたりして共有している。主治医からの注意事項、留意点を活用し、その都度検討してケア目標を立て、介護計画にを作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者が超高齢化になり、一人ひとりの状態変化に合わせて、毎日の生活がご本人、ご家族が安心して楽しく過ごしていけるように柔軟な介護支援やサービスに努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年12月28日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の馴染みの店に買い物に出かけたり、理髪店、歯科等を利用している。ご近所から、ご家族から旬の野菜やおやつの差し入れがあったり購入したりして、下処理提供している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所申込時に当所が24時間医療連携体制を近隣の診療所に依頼していること、重症・急変時・看取り等では、臨時往診すぐに対応できることを説明してご家族に納得していただき、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者は、希望するかかりつけ医による訪問診療を月2回利用している。受診に際しては、事前に「利用者情報提供書」をかかりつけ医に提供し、受診結果は「訪問診療報告書」を受けている。家族には面会時に伝えたり、文書で定期的に受診結果を報告している。必要に応じて、採血検査やレントゲン撮影等の健診を支援し、島内の県立病院や総合病院の受診も支援している。職員は申し送り等で、利用者の状態や薬の変更等を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々体調の変化や状況変化に職員が気づくとケアマネ(准看護師)に報告して、主治医、訪問看護師等に伝えて相談して適切な受診、看護に繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、主治医に随時ムンテラ希望して病状確認して、出来るだけ早期退院できるように支援している。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年12月28日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当所でも、数名の方が看取りのため、随時ご家族に現状報告して、主治医を交えてカンファレンスを行い今後の方針を明確にして同意を得ている。重症、看取りに向けたケア在り方、ご家族に対する心遣い等、職員が不安なく対応できるようにその都度勉強会をして、悔いのないように取り組んでいる。	利用者や家族には契約時に看取りに対応する方針を伝え、「重度化対応・終末期ケア対応指針」を説明し、意向に添って「看取り介護についての同意書」をもらっている。現在、108歳や98歳の利用者数名が、家族や主治医と話し合いを重ね、看取りのケアプランを作成し、支援している。看護師資格を有する職員2名を中心に、看取りの職員研修を行い、利用者への対応方法等、情報を共有しながら実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時のマニュアル集を作成していつでも見られるように配置している。また、定期的に応急処置や、初期対応の仕方を身に付けられるように勉強会をし実践力をつけている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜問わず定期的に避難訓練をしている。実際に災害時には、ご近所の応援協力が得られるようにしている。備蓄品は随時点検して賞味期限前には当所で使用している。	6月に昼間想定避難訓練を実施し、報告書等も整備されているが、夜間想定訓練は確認できなかった。訓練前には近隣住民を訪問し、訓練の予告と参加の依頼をしているが、当日の参加は得られていない。備蓄は、水や食料を3日分程度、懐中電灯やろうそく、リネン類等を整備している。2月に隣接する御嶽で火災が発生し、関係部署への通報、消火、利用者の避難を当日職員や非番職員が連携して行い、無事に避難をし、総括もしている。	あらゆる災害に備え、年に2回以上の昼夜想定避難訓練の実施が望まれる。合わせて訓練への地域住民の協力体制の構築にも期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いには十分に配慮して、一人ひとりの思いを尊重して、丁寧な言葉使い対応に心掛けている。また、個人情報の保護にも努めている。	契約書に「利用者及び家族等の権利」が明文化され、契約時に、その内容や同性介助等について利用者や家族に説明している。「個人情報使用同意書」で担当者会議と介護計画作成時に個人情報の使用の同意を得ているが、個人情報の保護方針や利用目的の掲示は確認できなかった。利用者の要望で、トイレの使用時にドアを閉めずにカーテンを利用している場合がある。	利用者の人格を尊重し、プライバシーの保護を徹底する大切さを利用者とともに再確認し、排泄支援時はトイレのドアを閉めることや個人情報保護方針及び利用目的の掲示が望まれる。また、利用目的は、特定することが望まれる。

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年12月28日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で、ご本人からの希望、要望に叶えられるよう できる限り行っている。毎日の生活の中で、コミュニケーションに力を入れ意見、要望が訴えやすい環境、声掛けをし馴染みの関係に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのマイライフスタイルを把握して、日々の体調に合わせて、マイペースに暮らせるように、業務に追われるケアではなく、ゆとりとゆとりのある対応を心がけ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自ら毎日自分の好きな洋服に着替えている利用者2名。他は季節にあった服を職員が選んで毎日着替えています。外出するときにはお出かけ服に着替え、化粧もして外出している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に食べたい物を聞き、リクエストに出来るだけ答えている。一緒に買い出しに行ったり、外食したりする。下準備、盛り付け、配膳、下膳、食器洗と出来る利用者もいらっしやる。職員も食卓と一緒に囲んで談笑しながら食べる。	食事は、専属の調理員を中心に3食事業所で調理している。献立は、地元の旬の食材や差し入れの野菜等を活用し、刺身やウナギ、果物やゼリー等利用者の嗜好も反映させている。利用者は食材の買い出しや野菜の下ごしらえ、配膳・下膳、おやつ作り等に参加している。身体状況に合わせて自助具の使用、小さなおにぎりを手のひらにのせるなど、利用者が食べやすい工夫をしている。中庭で昼食やおやつを食べる機会を持ち、楽しく食事ができるよう支援している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年12月28日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎日チェックして、少ない時には時間に関係なく食べれる時に提供している。一人ひとり形態を変えて食べやすいように状態に合わせて工夫している。旬の野菜をご近所農家から買取、出来るだけ自力で摂取してもらい、とろみは必要に応じて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア実施している。自らできる人は、声かけて歯磨き、入れ歯の洗浄をしている。入れ歯は、適宜ポリデント施行している。2ヶ月1回ご近所の歯科に2名受診している。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツから布パンツに変えられた利用者もあり、排泄チェック表の活用で、一人ひとりの排泄パターンを把握して、声かけしてトイレ誘導して失敗を減らしている。訴えることができない利用者には、表情や行動、習慣を活かして自立できるように支援している。	利用者の表情、仕草、様子に目配りをし、排泄チェック表で排泄パターンを把握している。尿路感染の予防や自力排泄に向けて、紙パンツから布パンツへの移行、トイレ排泄時は手引き歩行等を支援している。失禁時は、利用者の尊厳を傷つけないよう声かけを工夫している。寝たきりの利用者の居室にはオムツを置かず、臭いに配慮し、おむつ交換時は特定のカートを利用して排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便パターンを確認しながら、食事で食物繊維の多い野菜、牛乳、ヨーグルト等を提供している。日中の活動量を増やして、どうしても便秘気味になる時には、主治医に相談して緩下剤を処方して調節をしている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年12月28日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調やその日の気分によって柔軟に対応している。湯船に浸かったり、足浴しゆっくりと談話しながら介助している。自立している利用者は、時間がかかっても見守りして入っている。	入浴は週2回の午前中で、足浴や清拭の場合は午後行うことを基本にし、利用者の体調や希望に応じて日時を変更している。入浴を嫌がる利用者には散歩や足浴を促したり、車イスで迎えて浴室まで移動する等工夫している。入浴時は会話をしながら、さりげなく全身状態をチェックしたり、浴槽に入りたい利用者やシャンプーを好まない利用者の意向にも対応するよう努めている。整容室は夏は扇風機、冬はヒーターで温度管理をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのライフスタイルに合わせた対応で、無理をせずご本人の様子を見ながら声かけし休んでもらう。夜間不眠の時には日中の活動量を増やしたり、昼寝をしたり、ご本人が休みたい時に休んでもらっている。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が内服薬の情報をコピーして準備時には確認しながら専用カップに入れて飲み間違えないように注意している。症状の変化時には主治医報告し指示を仰いでいる。	利用者の服薬の内容、服薬状態、薬の変更等に関する情報は、申し送りや変更時の報告等で共有している。看護師資格を有する計画作成担当者が1週間分の配薬を行い、夜勤と早番のシフト担当者が1日分のセットを二重チェックし、服薬の一連の仕事分担を職員間で確認するよう努めている。今年は、飲み違いや飲み忘れの誤薬があった。	服薬マニュアルを作成して、利用者の服薬内容、服薬前後の確認の方法等を職員間で共有するとともに、誤薬の予防に努め、より安心・安全な服薬支援を行うことが望まれる。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴で興味を示すものを把握して、出来ることを増やして楽しみにし、買い物、地域のイベント等に出掛け気分転換の支援をしている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年12月28日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1名、毎月集会の方と、外出外食を楽しみ、歩行可能な方は、ご近所のスーパーへ欲しいものを買出しに行き提供している。ご家族とも外出したりしている。	普段は近所を散歩し、近隣のイモ畑やスーパー等への買出し等に出かけている。馴染みの理容室や伊良部漁港へのドライブ、友人との外食、歌謡ショー等に出かける利用者もいる。外出が困難な方には、中庭や中庭に面する廊下、玄関前等で外気浴をしている。調査当日、玄関前にあるベンチに座り、きび畑を眺めながら一人の時間を過ごしている利用者の姿が見られた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	2名当所で現金を預かり、1名は欲しいものをご近所のスーパーへ一緒に出掛けて、レジでは御本人が支払いをして荷物も自分で持って帰っている。買いたいものが、今では所持金を気にして節約している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人からの電話には、御本人に替わって会話を楽しんでもらっている。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	圧迫感なく広々とした空間で、窓を多くして自然の光をたくさん取り入れ明るく、換気出来、周辺には建物がないので静かで、自然の音が聞こえ、季節の花を見ることが出来、園内では、季節の花を飾り、行事に合った飾り付け、廊下の壁や居室には写真を貼り、居心地良い空間になるように工夫している。	管理者が建設段階から関わり、建物が中庭を囲むコの字型に造られ、食堂兼居間からほとんどの居室の入口が見えるようになっている。玄関フロアには、古い秤や黒電話などを飾り、会議やイベント等多目的に使える広いホールにはテーブルや椅子、ソファが配置されている。玄関前のベンチや中庭のベンチから、道路やきび畑の景色を眺めることができる。食堂の一角に畳間があり、子ども連れの面会、職員の子も達との交流に活用している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年12月28日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの過ごす自分の席があり、気のあった者同士で会話を楽しんでいる。玄関前と外、廊下には外が眺められるようにベンチやソファを設置していつでも好きな時に過ごせられるようにしている。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅に近づけられるように、ご家族と御本人と相談して、飾り付けや以前使用していたものを使っている。昔ながらの日めくりカレンダーも備え付けている。	各居室の壁には、管理者手作りの飾り棚が備え付けられ、タンスの上部には、地震対策が施されている。108歳の利用者の居室には、小さめの伝言板を用意し、家族との情報交換にほぼ毎日利用している。体格の大きな利用者のために、大きいベッドに交換し、居室の照明器具を随時LED蛍光灯に取り替えている。キルト地の手作りのクッションをベッド回りや手すり、車イス等に取り付け、利用者の安全や心地よさに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行可能な利用者には、リビングから遠い居室にして、下肢筋力が低下しないようにしている。危険なものは置かないように環境を整えている。出来ることを増やし楽しく生活ができる一方で、安全で安心して生活ができるように工夫して支援している。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホームあさぎりの里

作成日 : 平成 31 年 1 月 7 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価、及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点・課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	外部評価の結果報告は、事務所前に公開しているが、運営推進会議議事録を利用者ご家族に送付しているのみで、公開していない。	運営推進会議議事録を公表する。	施設の運営規程、重要事項説明書、利用契約書再確認作成して、運営推進会議議事録も公表しています。	3ヶ月
2	6	身体拘束廃止委員会の開催しているが、記録として残していない。重症、看取りの利用者に、電動ベッドを使用し始めてから4点柵のままだった事。	記録に残す。早急に検討会議をして対策を講じる。外部からの参加も依頼する。	早急に検討会議開催して記録として残し、運営推進会議に反映して指導、意見をいただきます。	12ヶ月
3	35	H29年度の避難訓練、日中火災避難訓練のみしか出来ていないので、年間を通して2回昼夜想定避難訓練実施する。	平成30年度は昼夜想定避難訓練を実施する。	平成30年度は、6月日中火災避難訓練、11月に夜間想定避難訓練を実施しました。平成31年度は、5月日中火災避難訓練、10月に夜間想定避難訓練を予定しています。ご近所のご協力も依頼しています。	12ヶ月
4	36	排泄時のカーテンは使用しているが、プライバシー保護を再確認し、個人情報の保護方針及び利用目的の提示をする。	トイレには二重のカーテンをしてプライバシー保護を徹底して、利用目的の提示をする。	二重カーテンは早急にして、個人情報の保護のために、各利用者のご家族に方針を説明し、掲示して同意書作成しサインを頂いています。	3ヶ月
5	47	新人職員が多かったので職員全員が、各利用者の内服を理解出来ていないのと、セットした方、投与した方を信頼し、ダブルチェックを怠っていた。飲み忘れ、飲み間違えを起こしていた。	服用マニュアル作成し、ダブルチェック表作成実施する。	マニュアル作成し職員間で供して、ダブルチェック表作成して、誤薬防止を徹底します。	6ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。